

2025 年度

授業科目名		コミュニケーションサポートⅠ															
学科・コース		国際ホスピタリティ科															
担当教員		安森 亜寿香															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技				1		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標																	
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～22	始業式、終業式								① 集団行動のルール、マナーが理解できる ② 集団行動のマナーが実践できる ③ 他人の発表を理解し、意見が言える ④ 本科及び異国籍の学生と交流できる ⑤ グループ活動に積極的に取り組む ⑥ 各行事についての振り返りができる							
	23～26	マナーコンテスト															
	27～28	Language Day															
	29～38	校外研修（事前・事後学習含む）															
	39～42	ニューイヤーセミナー															
	43～44	防災訓練															
	45～60	クラス活動															
成績評価方法		出席率80% 取組み態度20%															
使用テキスト／教材		なし															
関連科目		コミュニケーションサポートⅡ															
その他		社会人として必要な積極性・協調性を伸ばすために、全ての行事に積極的に取り組むこと。															

シラバス（授業概要） 2025 年度

シラバス（授業概要） 2025 年度

授業科目名		キャリアサポートⅠ															
学科・コース		国際ホスピタリティ科															
担当教員		安森 亜寿香															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		1		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		現代日本事情と日本の就職について理解し、自分が希望する業界・職種を明確にする															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～11		現代日本事情								① 日本の社会や文化を知る ② 社会文化能力・社会人基礎力がつく ③ 日本の就職活動の現状とスケジュールが理解できる。 ④ 留学生が日本で就職するために必要な力や条件が分かる。 ⑤ 自己分析を通して自分の「適性」を知りたい仕事を探す軸が見つけられる。 ⑥ 業界研究・企業研究・情報収集の方法がわかる。 ⑦ 自分のやりたい仕事の方向性を決め、専門コースを選択することができる。						
	12～20		社会文化能力・社会人基礎力														
	21～22		日本の就職活動について														
	23～33		業界研究・職種研究・企業研究														
	34～47		自己分析														
	48～60		専門コース説明														
成績評価方法		授業への取り組み60% 提出物30% 出席率10%															
使用テキスト／教材		『外国人留学生のための就活ガイド2026』、『業界・企業研究入門 会社選びの第一歩』、『留学生のための日本事情入門』、『伸ばす！就活能力 ビジネス日本語力』															
関連科目		キャリアサポートⅡ															
その他																	

2025 年度

授業科目名		ICTリテラシーⅠ													
学科・コース		国際ホスピタリティ科													
担当教員		松川 麻美													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
実習				1		通年		必修		60		2			
授業目的 到達目標		基本的なPC操作の知識とスキルの習得を目指します。日本語タイピング入力、Excelで計算やグラフの入った表作成、Wordでさまざまなビジネス文書作成を習得していきます。													
授業手法		・対面		○		・遠隔		○		・対面/遠隔		○		・オンデマンド	
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○		反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略						わかる目標・できる目標						
	1～2		パソコンの取扱い 学内ルール						① パソコンの基本操作が理解できる ② データの管理方法が理解できる ③ スムーズに日本語入力ができる ④ 日本語でのタイピング速度が速くなる ⑤ メールやWebコミュニケーション について理解できる ⑥ 情報モラルや情報セキュリティ について理解できる ⑦ Wordの概要と基本操作ができる ⑧ Excelの概要と基本操作ができる ⑨ さまざまな機能や数式を理解できる ⑩ 表計算検定試験を受験できる						
	3～8		Windows基本操作 ファイルとフォルダ												
	9～10		入力操作の基本 日本語タイピング												
	11～14		インターネットとクラウドサービスの利用												
	15～16		情報モラルとセキュリティ												
	17～18		個人情報の取扱いと著作権												
	19～22		Word演習 基本操作、書式設定												
	23～30		Word演習 課題												
	31～32		Excel演習 Excelの基本												
	33～34		Excel演習 セル操作の基本												
	35～38		Excel演習 表の作成と編集												
	39～42		Excel演習 数式と参照												
	43～58		表計算模擬練習												
	59～60		表計算検定試験												
成績評価方法		【前】課題（80％）、出席率（10％）、態度・姿勢（10％） 【後】表計算検定（40％）、模擬（40％）、出席率（10％）、態度・姿勢（10％）													
使用テキスト ／教材		留学生のためのかんたんWord/Excel/PowerPoint 入門（技術評論社） 情報処理検定試験 表計算問題集													
関連科目		キャリアサポート													
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。													

シラバス（授業概要） 2025 年度

2025 年度

授業科目名		マナー・ホスピタリティⅠ																
学科・コース		国際ホスピタリティ科																
担当教員		松永清美																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義		・演習		1		通年		必修		60		2						
授業目的 到達目標		挨拶、立ち居振る舞いなど、印象を良くするための授業を行います。日本社会における基本的なマナーを理解し、身に付けます。講義・演習形式																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ				
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～4		マナーBOOKを使ったマナー学習 (マナーの意味と必要性)								10項目程度							
	5～8		マナーBOOKを使ったマナーの実践								①マナーの意味が理解できる							
	9～12		S-airのマナー								② マナーの必要性がわかるようになる							
	13～16		日本のマナー・礼儀作法								③ 日本語で自分のことが話せるようになる							
	17～20		他国のマナー・エチケット								④ 正しい日本語の理解が深まる							
	21～26		自己表現①正しい日本語で自己紹介								⑤ 接遇に必要な資質を知ることが出来る							
	27～32		自己表現②自分の考えを表現								⑥身だしなみへの意識を持つことが出来る							
	33～38		接遇のための日本語								⑦美しいお辞儀等の所作が身に付く							
	39～44		接遇のための言い換え								⑧お客様対応の言葉遣いが分かるようになる							
	45～50		接遇に必要な資質								⑨ 丁寧な言葉に言い換えることが出来る							
	51～56		接遇ロールプレイ対策								⑩ 接遇の場でのコミュニケーションがわかる							
	57～60		サービス接遇3級ガイドでの学習								ようになる							
成績評価方法		出欠席 40%、平常点 30%（発表内容・表現力）、期末試験 30%																
使用テキスト ／教材		マナーBOOK 2025(オリジナルテキスト)、サービス接遇3級公式テキスト（後期）																
関連科目		マナー・ホスピタリティⅡ																
その他																		

2025 年度

授業科目名		ビジネス言語演習　Ⅰ															
学科・コース		国際交流科															
担当教員		安森　亜寿香															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		1		通年		必修		270		9					
授業目的 到達目標		日本語の言語知識を高め、ビジネスシーンで通用する日本語力を身に付ける。 日本語能力試験の取得を目指す。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク				
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ				
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～80		語彙力の向上、運用力の強化（話題別、性質別）								①語彙の知識を増やし、使うことができる ②文法的性質がわかる ③文法形式を文脈で使うことができる ④文章の内容が理解できる ⑤文章全体の趣旨を理解できる ⑥問いを解く技術が身に付く ⑦発話する力が付く ⑧ニュースを読んで意見が言える ⑨他者の話を聞いて自分の意見が言える						
	81～160		文法知識の積上げ、運用力の強化														
	161～240		「読解」能力の向上														
	241～255		J L P T 模擬試験・解説														
	256～270		ニュースの発表・スピーチ														
成績評価方法		期末試験50%　授業への取り組み20%　小テスト20%　出席率10%															
使用テキスト ／教材		『新完全マスター日本語能力試験N2』語彙・文法・読解 『N2読解スピードマスター』															
関連科目		ビジネス言語演習Ⅱ															
その他		予習、復習、宿題は必ずしましょう。															

2025 年度

授業科目名		文章表現													
学科・コース		国際ホスピタリティ科													
担当教員		北條 彰子													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
演習				1		通年		選択		60		2			
授業目的 到達目標		正しく書く力を付ける。書くときに、考えを整理し、整理して書けるようにする。そして、自分の意見や主張を理由付けしながら表現できるようにする。													
授業手法		・対面		・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド							
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク	
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他	
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略						わかる目標・できる目標						
	1～2		自己紹介、 助詞、文法の復習、メールの書き方						10項目程度						
	3～12		キーワードをつなげて書く。						① 助詞、文型のまちがいがなく、書ける。						
	13～24		順序を考えて書く。						② 構成を考えて、わかりやすく書ける。						
	25～34		理由を考えて書く。						③ 理由が書ける。						
	35～42		論理的に考えて書く。						④ 論理的に考えて書ける。						
	43～49		テーマに基づいて書く。						⑤ 自分が言いたいことをまとめ、わかりやすく伝えられる。						
	50～53		スピーチ準備												
	54～60		スピーチ発表												
成績評価方法		課題作文（60％）、小テスト（10％）、授業態度・取組み（20％）、出席率（10％）													
使用テキスト／教材		「日本語ロジカルトレーニング」													
関連科目															
その他		正しく文が書ける力を付けましょう。													

2025 年度

授業科目名		漢字・語彙													
学科・コース		国際ホスピタリティ科													
担当教員		安森 亜寿香													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
演習		・講義		1		通年		必修		60		2			
授業目的 到達目標		・ 現代社会に関する様々なトピックやニュース記事によく使われる漢字を習得する。 ・ 習得した漢字の基礎力や知識を活用し、専門的な情報を読み取る力をつける。													
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔			・ オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク		
	双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ		
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～6	1課 「日本列島」								① 部首、漢字の成り立ちがわかる ② 漢字から意味が類推できる ③ 漢字の書き方の基本が身につく ④ 社会に関わるトピックの漢字が読める ⑤ 既習漢字が正しく読み書きできる					
	7～12	2課 「日本の産業」													
	13～18	3課 「日本の貿易」													
	19～24	4課 「日本の景気変動」													
	25～28	10課 「地球温暖化対策」													
	29～32	11課 「日本のエネルギー問題」													
	33～36	12課 「ネット社会の課題」													
	37～40	13課 「日本の進学事情」													
	41～44	14課 「日本の少子高齢化」													
	45～48	15課 「日本の雇用問題」													
	49～52	演習													
	53～60	期末試験・解説													
成績評価方法		期末筆記試験(70%) 小テスト(20%) 出席率(10%)													
使用テキスト ／教材		『PRACTICAL KANJI 現代を読む700漢字Vol.1』AJALT アスク出版													
関連科目															
その他		漢字が正しく書けるように、必ず復習をしましょう。													

2025 年度

授業科目名		読解												
学科・コース		国際ホスピタリティ科												
担当教員		北條 彰子												
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位		
演習		・講義		1		通年		必修		120		4		
授業目的 到達目標		・読解を読むテクニックを身に付け、読解の読み方がわかるようになる。 力が付く。・語彙力、漢字力を付ける。										・読解		
授業手法		・対面		○		・遠隔		・対面/遠隔		・オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		フィールドワーク		
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		ロールプレイ		
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業		その他		
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略						わかる目標・できる目標					
	1～12		読解要点発見、文の流れをつかむトレーニング						① 語彙力が付く ② 漢字が読めるようになる。 ③ 漢字から意味が類推できるようなる。 ④ 文法能力の向上 ⑤ 読解文の読み方がわかるようになる。 ⑥ 指示詞が指すものが読み取れる。 ⑦ 省略しているものが読み取れる ⑧ 筆者の主張が読み取れる ⑨ 読解文の音読が上手にできる					
	13～18		「する」「される」の関係、使役、使役受け身											
	19～22		これ、それが指すもの											
	23～26		前件・後件の関係											
	27～30		省略しているものを読み取る											
	31～34		文の終わりの表現											
	35～38		関連のある言葉											
	39～41		大切なことを伝えるサイン											
	42～44		目印を使って内容を理解											
	45～51		期末試験・解説											
	52～70		『読む力中級』筆者の主張や意図の把握											
	71～90		人物の特徴の把握・筆者の提案と根拠											
	91～117		事象の現状、展望、原因、問題点が把握できる											
118～120		期末試験・解説												
成績評価方法		期末試験60%、出席率10%、授業態度10%、小テスト20%												
使用テキスト ／教材		「留学生のための読解トレーニング」 「読む力中級」												
関連科目														
その他		読解の読み方を知ったら、読むことが楽しくなります。												

2025 年度

授業科目名		会話															
学科・コース		国際ホスピタリティ科															
担当教員		田中 彰子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習				1		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		・日常生活でよく使う場面での会話練習をし、会話能力をつける。 ・正しい日本語で自分が言いたいことを相手にきちんと伝えられるようになる。 ・日本語で豊かなコミュニケーションができるようになる。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		自己紹介、教室の入退室、事務室での会話								① 人間関係や場面に応じた表現の 使い分けができる ② 相手の気持ちに配慮した言い方が できる ③ 相手が述べた情報を正確に聞き取る ④ 相手の意図や感情を正しく理解する ⑤ 正しいイントネーションを身につける ⑥ 会話のやりとりの能力を伸ばす						
	3～4		電話連絡、先生との会話														
	5～8		「電話で連絡する」														
	9～14		「症状を伝える」														
	15～20		「褒める・謙遜する」														
	17～21		「伝言を申し出る・頼む」														
	22～23		＜前期＞期末試験・フィードバック														
	24～28		「許可を求める・与える」														
	29～33		「依頼する・指示する」														
	34～38		「誘いを受ける・断る・返事を保留する」														
	39～43		「確かな・不確かな情報であることを示す」														
	44～48		「提案を述べる」														
	49～53		「文句・苦情を言う」														
54～58		「感想を述べる」															
59～60		＜後期＞期末試験・フィードバック															
成績評価方法		期末試験（60％）、授業への取り組み（30％）、出席率（10％）															
使用テキスト ／教材		『新日本語の中級（本冊）』『日本語生中継』															
関連科目																	
その他		リスニング能力を高め、実生活の場で適切に話す能力を身につけましょう。															